

2026年3月

はなびらたけ種

Wood Cauliflower

Sparassis crispa Wulfen Fr.

はなびらたけ種審査基準

I. 審査基準の対象(Subject of these Guidelines)

この審査基準は、ハナビラタケ科 (*Sparassidaceae*) の、ハナビラタケ属 (*Sparassis* Fr.) ハナビラタケ種 (*Sparassis crispa* Wulf.: Fr. (Cauliflower Mushroom)) の全ての品種に適用する。

II. 提出種苗 (Material Required)

- i) 種苗の形態 寒天培地に生育させた二核菌糸体
- ii) 提出時期 審査当局が指定する時期
- iii) 数量 試験管 3 本
- iv) 提出する種苗は、雑菌に汚染されていないものであること。
- v) 提出種苗は審査当局が指示した場合を除き薬剤、その他の処理をしていないものであること。もし、処理が行われている場合はその処理の詳細について記載すること。

III. 試験の実施 (Conduct of Tests)

- i) 栽培条件 特性の確認が十分にできる正常な生育が可能な条件下で実施する。
(参考を参照)
- ii) 最低供試培地数 36菌床 (1kg 丸玉) (12 菌床×3 反復)
- iii) 栽培期間 2生育周期 ただし、区別性及び均一性の結果が明確な場合は、2生育周期目を省略することができる。
- iv) 調査方法
調査個体数 特に指示がない限り、36 菌床すべてを調査する。均一性は供試した全ての個体で判定する。
調査時期等 特に指示がない限り、子実体株の花弁状菌さんの形、色、密度が本来の特性を維持した状態で、生長が最大到達点となった時期 (収穫期) に調査する。
また、特性表の調査方法欄に記載がある(a)-(c)の記号については、特性表の説明VIII. iを参照する。
特別な試験 特別な条件下でのみ発現する特性があり、出願者が試験方法等を添えて申告し、審査当局がこれに同意した場合は実施することがある。

IV. 判定基準 (Standards for decisions)

判定は、品種登録出願審査等要領の区別性、均一性及び安定性 (D.U.S.) 審査のための一般基準に基づくものとする。

均一性については、母集団標準 1%、受容確率 95%を適用し、UPOV の TGP/8 文書の 8.1.10 節の図表 5 により判定する。供試個体数 36 の場合は、許容される異形個体数は 2 である。

V. グループ分けに使用する形質 (Grouping of Varieties)

i) 花弁状菌さんの形 (形質9)

ii) 最適培養期間 (形質21)

VI. 特性表で使用する記号の説明 (legend)

G : グループ分けに使用する形質

(*) : 品種記載の国際調和のための必須調査形質

QL : 質的形質

QN : 量的形質

PQ : 疑似の質的形質

(+) : VIII.に特性表の説明図等を示す

MG : 植物体あるいは植物体の一部を集団として測定記録

MS : 植物体あるいは植物体の一部の個々の測定記録

VG : 植物体あるいは植物体の一部を集団として観察記録

VS : 植物体あるいは植物体の一部の個々の観察記録

必須形質 : 原則、必ず評価しなければならない形質であり、選択形質以外の全ての形質のため、特性表の備考欄の記載は省略される。

選択形質 : 種苗法施行規則第5条第2項に定める出願品種が当該形質によって他の品種と明確に区別されないと出願者が思料する場合に、当該形質に係る特性を願書に記載しないことができる形質。特性表の備考欄に付記される。

状態区分

質的形質及び疑似の質的形質の場合、全ての状態が特性表に記載してある。しかし、5階級以上の状態がある量的形質の場合、省略した状態が用いられることがある。例えば、9階級の状態による量的形質の場合、審査基準の状態は、以下のとおりに略されることがある。

状態(State)		階級 (Note)
(日本語)	(English)	
小	small	3
中	medium	5
大	large	7

しかし、以下の9階級の状態を品種の記述として使用できるが、その場合には適切に使用するよう留意する。

状態 (State)		階級 (Note)
(日本語)	(English)	
極小	very small	1
かなり小	very small to small	2
小	small	3
やや小	small to medium	4
中	medium	5
やや大	medium to large	6
大	large	7
かなり大	large to very large	8
極大	very large	9

VII. 特性表 (Table of Characteristics)

形質番号	UPOV No.	記号	形質 (Characteristics)		定義	調査方法	階級	状態 (State)		標準品種 (Ex. Var.)	備考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
1		QN (+)	菌糸密度	Colony: density of hyphae on the medium	寒天培地上の菌糸の粗密	観察 VG (a)	3 5 7	粗 中 密	sparse medium dense	KSC-03号、 KSC-H2号、 KSC-H8号	
2		QL (+)	菌そう表面の着色の有無	Colony: tinting of surfaces on the medium	寒天培地上で生長した菌そうの表面の着色の有無	観察 VG (a)	1 9	無 有	absent present	KSC-03号、 KSC-H2号、 KSC-H8号	
3		QL (+)	菌そう裏面の着色の有無	Colony: tinting of back on the medium	寒天培地上で生長した菌そうの裏面の着色の有無	観察 VG (a)	1 9	無 有	absent present	KSC-03号、 KSC-H2号 KSC-H8号	
4		QN (+)	菌糸体の生長最適温度	Colony: optimum temperature for growth	寒天培地上で菌糸が最も良く伸長する温度帯	測定 MS °C (b)	1 2 3 4 5	極低 低 中 高 極高	very low low medium high very high	KSC-H8号 KSC-03号、 KSC-H2号	
5		QN (+)	板状原基（気中菌糸）の割合	Rate of plate-like primordia (aerial mycelium)	発生処理時において、袋上部に形成する板状の原基（気中菌糸）の割合	観察 VG (c)	1 2 3 4 5	極少 少 中 多 極多	very few few medium many very many	KSC-H2号 KSC-H8号 KSC-03号	

形質番号	UPOV No.	記号	形質 (Characteristics)		定義	調査方法	階級	状態 (State)		標準品種 (Ex. Var.)	備考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
6		QN (+)	子実体株の直径	Fruit body: diameter	子実体株の長径と短径の平均値	測定 cm MS (c)	1 2 3 4 5 6 7 8 9	極小 かなり小 小 やや小 中 やや大 大 かなり大 極大	very small very small to small small small to medium medium medium to large large large to very large very large	KSC-03号、 KSC-H8号 KSC-H2号	
7		QN (+)	子実体株の高さ	Fruit body: height	接種面から 2cm 上で収穫して得られる子実体株の高さ	測定 cm MS (c)	3 5 7	低 中 高	low medium high	KSC-03号、 KSC-H2号、 KSC-H8号	
8		PQ (+)	花弁状菌さんの色	Petal-like cap: color	花弁状菌さん表面の色	観察 VG (c)	1 2 3 4	白色 淡黄白色 黄白色 淡黄色	white light yellow white yellow white light yellow	KSC-H2号、 KSC-H8号 KSC-03号	
9		PQ (+) G	花弁状菌さんの形	Petal-like cap: shape	花弁状菌さんの形	観察 VG (c)	1 2 3 4	針状 カーネーション状 ハボタン状 イチョウ葉状	spine carnation kale ginkgo	KSC-03号、 KSC-H2号、 KSC-H8号	

形質番号	UPOV No.	記号	形質 (Characteristics)		定義	調査方法	階級	状態 (State)		標準品種 (Ex. Var.)	備考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
10		QN	花弁状菌さんの厚さ	Petal-like cap: thickness	花弁状菌さんの先端から1cmの位置の厚さ	測定 mm MS (c)	3 5 7	薄 中 厚	thin medium thick	KSC-03号、 KSC-H2号 KSC-H8号	
11		QN (+)	花弁状菌さんの硬さ	Petal-like cap: firmness	花弁状菌さんの先端から1cmの位置の硬さ	測定 MS (c)	3 5 7	軟 中 硬	soft medium hard	KSC-03号、 KSC-H2号 KSC-H8号	
12		QN (+)	花弁状菌さん周縁部の切れ込み割合	Petal-like cap: notch of periphery	花弁状菌さん周縁部の切れ込みがある子実体株の割合	測定 % MS (c)	1 2 3 4 5	極少 少 中 多 極多	very few few medium many very many	KSC-03号、 KSC-H2号、 KSC-H8号	
13		PQ (+)	花弁状菌さんの密度	Petal-like cap: density	子実体株全体を見た時の花弁状菌さんの密度	観察 VG (c)	3 5 7	粗 中 密	sparse medium dense	KSC-H2号、 KSC-H8号 KSC-03号	
14		PQ (+)	枝の色	Branch: color	枝の表面の色	観察 VG (c)	1 2 3 4	白色 淡黄白色 黄白色 淡黄色	white light yellow white yellow white light yellow	KSC-H2号、 KSC-H8号 KSC-03号	

形質番号	UPOV No.	記号	形質 (Characteristics)		定義	調査方法	階級	状態 (State)		標準品種 (Ex. Var.)	備考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
15		QN	枝の厚さ	Branch: thickness	枝の先端から1cmの位置の厚さ	測定 mm MS (c)	1 2 3 4 5 6 7 8 9	極薄 かなり薄 薄 やや薄 中 やや厚 厚 かなり厚 極厚	very thin very thin to thin thin thin to medium medium medium to thick thick thick to very thick very thick	KSC-03号、 KSC-H2号 KSC-H8号	
16		QN (+)	枝の硬さ	Branch: firmness	枝の先端から1cmの位置の硬さ	測定 MS (c)	3 5 7	軟 中 硬	soft medium hard	KSC-03号、 KSC-H2号、 KSC-H8号	
17		PQ (+)	菌柄の色	Stipe: color	菌柄最下部（収穫した際の子実体株の切断面）の標準的な色	観察 VG (c)	1 2 3 4	白色 淡黄白色 黄白色 淡黄色	white light yellow white yellow white light yellow	KSC-03号、 KSC-H8号 KSC-H2号	

形質番号	UPOV No.	記号	形質 (Characteristics)		定義	調査方法	階級	状態 (State)		標準品種 (Ex. Var.)	備考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
18		QN	菌柄の厚さ	Stipe: thickness	菌柄最下部（収穫した際の子実体株裏面の断面部分）の標準的な厚さ	測定 mm MS (c)	1 2 3 4 5 6 7 8 9	極薄 かなり薄 薄 やや薄 中 やや厚 厚 かなり厚 極厚	very thin very thin to thin thin thin to medium medium medium to thick thick thick to very thick very thick	KSC-03号 KSC-H2号 KSC-H8号	
19		QN (+)	菌柄の硬さ	Stipe: firmness	菌柄最下部（収穫した際の子実体株裏面の断面部分）の標準的な硬さ	測定 MS (c)	1 2 3 4 5 6 7 8 9	極軟 かなり軟 軟 やや軟 中 やや硬 硬 かなり硬 極硬	very soft very soft to soft soft soft to medium medium medium to hard hard hard to very hard very hard	KSC-H2号、 KSC-H8号 KSC-03号	
20		QN (+)	菌柄の模様割合	Stipe: rate of pattern	菌柄最下部（収穫した際の子実体株裏面の断面部分）の模様の有無の割合	測定 % MS (c)	1 2 3 4 5	極少 少 中 多 極多	very few few medium many very many	KSC-H2号、 KSC-H8号 KSC-03号	

形質番号	UPOV No.	記号	形質 (Characteristics)		定義	調査方法	階級	状態 (State)		標準品種 (Ex. Var.)	備考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
21		QN (+) G	最適培養期間	Fruit body: incubation period	種菌接種から発生処理（発生移行）までの期間 （品種特性を維持し、子実体株を最も得られる期間）	観察/測定 日 VG/MS (c)	1 2 3 4 5 6 7 8 9	極短 かなり短 短 やや短 中 やや長 長 かなり長 極長	very short very short to short short short to medium medium medium to long long long to very long very long	KSC-H2号、 KSC-H8号 KSC-03号	
22		QN (+)	発生処理から収穫最盛期までの期間	Fruit body: period from scratching to harvest	発生処理から収穫最盛期までの期間	観察/測定 日 VG/MS (c)	3 5 7	短 中 長	short medium long	KSC-H2号 KSC-03号、 KSC-H8号	
23		QN (+)	子実体株の平均重量	Fruit body: weight at harvest maturity	菌床あたりの子実体株の平均重量	測定 g MG/MS (c)	1 2 3 4 5 6 7 8 9	極軽 かなり軽 軽 やや軽 中 やや重 重 かなり重 極重	very light very light to light light light to medium medium medium to heavy heavy heavy to very heavy very heavy	KSC-H2号、 KSC-03号 KSC-H8号	

VIII. 特性表の説明 (Explanations on the Table of Characteristics)

i) 特性の概要説明

- (a) 菌そう表面及び裏面の着色：純粋培養基による観察を行う。

培養基：PDA (Difco Laboratories, Detroit, Michigan, USA) シャーレ：内径 90 mm、高さ 20 mm (プラスチック製)

培養条件：後述 VIII. ii詳細参照 シャーレ数：1区3枚以上

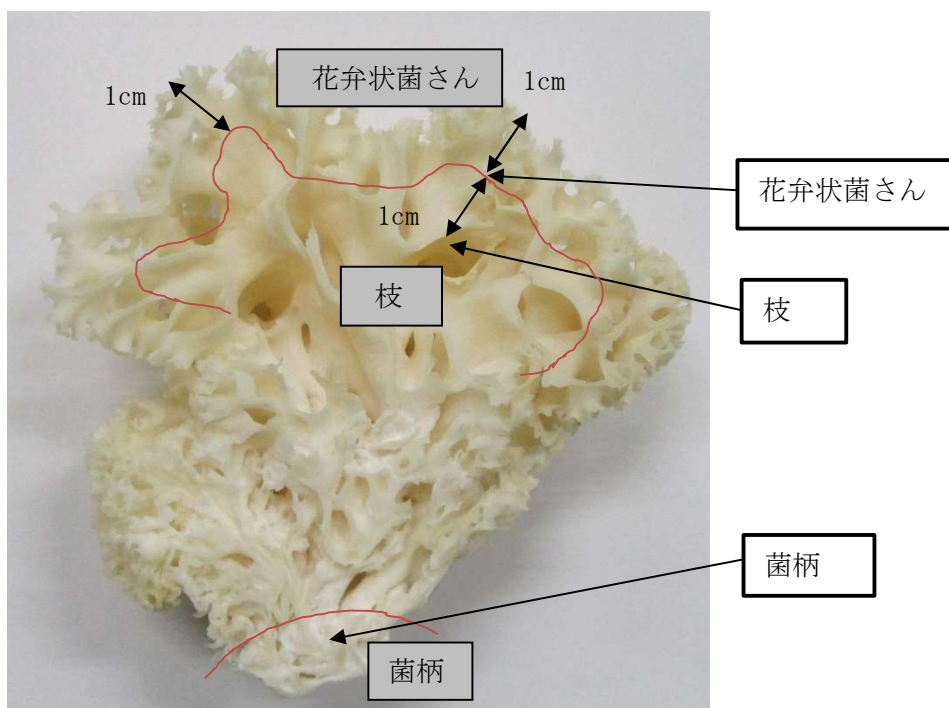
- (b) 菌糸体：純粋培養基による測定を行う。

培養基：PDA シャーレ：内径 90 mm、高さ20 mm (プラスチック製)

培養条件：後述VIII. ii詳細参照 シャーレ数：1区5枚以上

- (c) 子実体株

特記している場合を除き、子実体株の花弁状菌さんの形、色、密度が本来の特性を維持した状態で、生長が最大到達点となった時期 (収穫期) に調査する。



花弁状菌さん：調査対象部位は花弁状菌さんの先端から1cm (子実体株の先端から1cm) の箇所

枝：花弁状菌さんと菌柄に属さない中間箇所

調査対象部位は、枝の先端から1cmの箇所 (=子実体株先端から2cmの箇所)

菌柄：収穫した断面から枝分かれするまでの箇所

調査対象部位は、菌柄最下部 (子実体株裏面の断面部分) の標準的な箇所

ii) 特性の説明

形質1 菌糸密度 Char.1 Colony: density of hyphae on the medium

PDA 培地 (Difco Laboratories, Detroit, Michigan, USA) を使用する。

常法(121°C、15分)により滅菌し、シャーレ(内径90mm、高さ20mm)に20ml分注して作製した平面培地の中央部付近に、別に供試培地で前培養(22±1°C、14~21日間)した二核菌糸体の菌糸の伸びが平均的な周縁部の約5mm内側の箇所をコルクボーラーで小片(直径5mm程度)に打ち抜き、コルクボーラーで打ち抜いた二核菌糸体を表面が上になるように、培地の中央部付近に接種する。22±1°C上向きで暗培養し、菌糸がシャーレ上に70%程度に生長した時期に調査する。最低供試数はシャーレ3枚以上とする。

形質2 菌そう表面の着色の有無 Char.2 Colony: tinting of surfaces on the medium

形質3 菌そう裏面の着色の有無 Char.3 Colony: tinting of back on the medium

菌そう表面及び裏面の着色の有無については、PDA 培地を使用する。

供試培地はPDA 培地を使用し、常法により滅菌した培地をプラスチックシャーレ(内径90mm、高さ20mm)に20mL分注する。

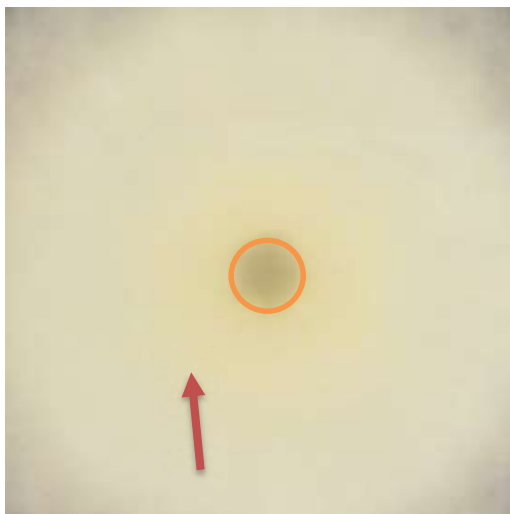
このあと、別に供試培地で前培養(22±1°C、14~21日間)した二核菌糸体の菌糸の伸びが平均的な周縁部の約5mm内側の箇所をコルクボーラーで小片(直径5mm程度)に打ち抜き、コルクボーラーで打ち抜いた二核菌糸体を表面が上になるように、培地の中央部付近に接種する。22±1°C上向きで暗培養し、蔓延後、同温度光照射下で2週間追培養した後、「菌そう表面の着色の有無」「菌そう裏面の着色有無」について観察する。なお、追培養は300Lx以上で8時間/日以上光照射された環境下で行う。最低供試数は1区5枚以上とする。また菌糸の状態撮影も行う。

[着色有無の例]

接種断片(○部分)の着色を除く菌そうの着色を判断する。(例: → が示す部分が有)



1 無 absent



9 有 present

形質4 菌糸体の生長最適温度 Char.4 Colony: optimum temperature for growth

20℃、22℃、24℃、26℃、28℃で21日後（504時間後）の菌糸体の生長量を測定し、二次曲線を描いて、生長最適温度を判定する。最低供試数は1区5枚以上とする。

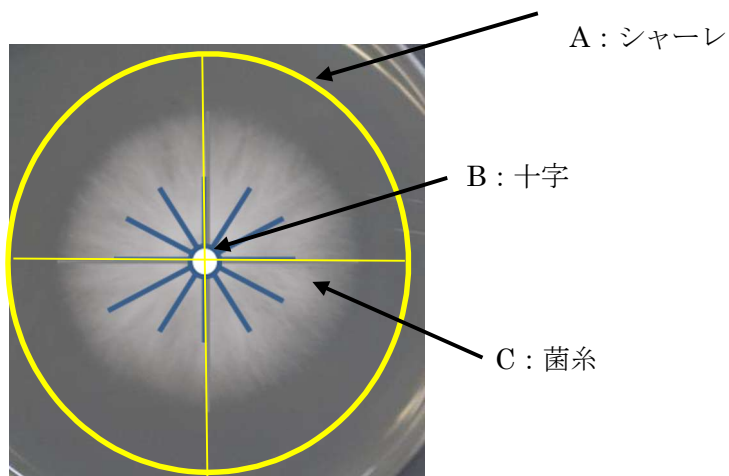
供試培地はPDA培地を使用し、常法により滅菌した培地をプラスチックシャーレ（内径90mm、高さ20mm）に20mL分注する。

このあと、別に供試培地で前培養（22±1℃、14～21日間）した二核菌糸体の菌糸の伸びが平均的な周縁部の約5mm内側の箇所をコルクボーラーで小片（直径5mm程度）に打ち抜き、コルクボーラーで打ち抜いた二核菌糸体を表面が上になるように、培地の中央部付近に接種する。22±1℃上向きで暗培養し、10mm程度まで菌糸体が伸長したら、スタートの目印を付け、21日間（504時間）培養し、1日当たりの菌糸伸長を測定する。

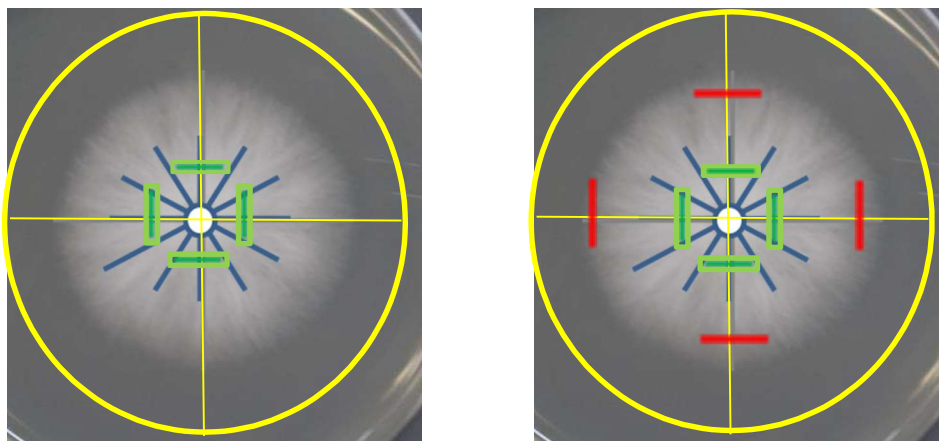
インキュベーターで培養する際の留意点として、シャーレ5枚としているが、7枚をビニール袋に入れ（写真参照）温度差が生じないように留意し、菌糸伸長を測定した数値の最大値、最小値を除いた5枚での平均値で算出する。



生長量の測定方法



- ① 予備暗培養したシャーレの裏にシャーレ中心で直交する十字の印を入れる。
十字線上にある菌糸先端4箇所をマークする。 (—)
- ② 20°C、22°C、24°C、26°C、28°Cの各温度に設定したインキュベーターに移動する。
- ③ 移動から21日培養後、十字線上にある菌糸先端4箇所をマークする。 (—)



- ④ 4箇所の2点のマーカ間の長さをノギスでそれぞれ測定する。
- ⑤ 4箇所 (赤線-緑線) の平均生長量を算出する
(これがシャーレ1枚あたりの21日の平均生長量となる)
- ⑥ 設定温度ごとに5枚のシャーレを供試し、各温度における1日当たりの平均生長量を算出する。

予備培養（直径が10mm程度になるまで）				本培養				
				1日目	2日目	3日目	・・・	21日目
予備培養完了時に 緑線記入（4箇所）①				21日間（504時間）培養後 赤線記入（4箇所）②				
				②と①間の数値測定・・・21日間の成長量				

生長最適温度は、20℃、22℃、24℃、26℃、28℃の1日当たりの生長量で生長曲線（二次曲線）を描いて判定する。

なお、前後の温度帯の生長量と比較し、異常な数値となった場合は、当該温度帯の測定をやり直すこととする。また、20℃もしくは28℃で二次曲線が下がらない場合には、18℃もしくは30℃など、2℃幅で温度帯を追加で設け、測定を実施し、合わせて生長曲線（二次曲線）を描いて判定する。

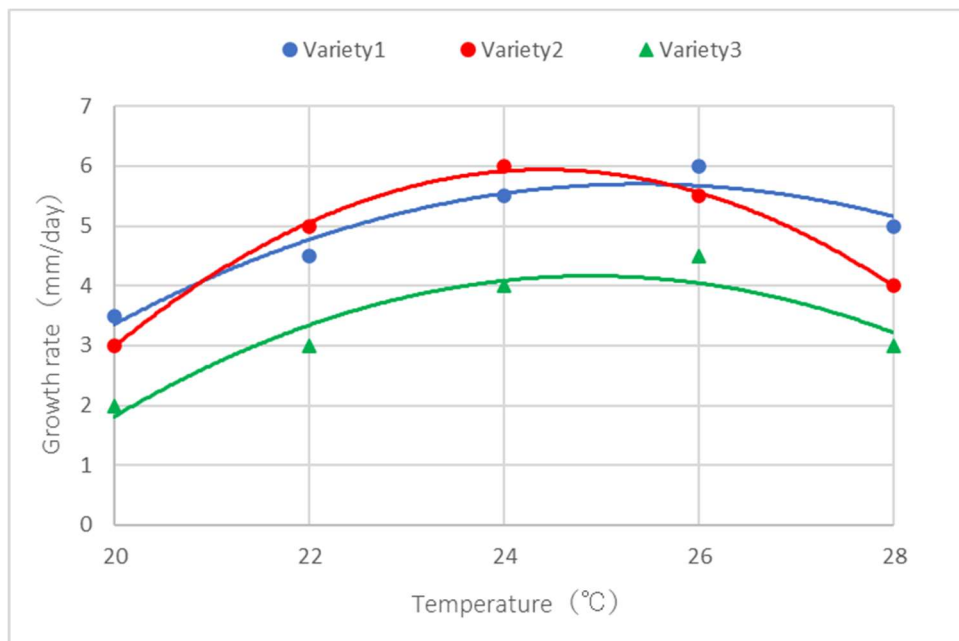


図1 生長曲線

形質5 板状原基（気中菌糸）の割合 Char.5 Rate of plate-like primordia (aerial mycelium)

発生処理時において、接種面に接着していない袋上部に形成する板状の原基（または気中菌糸）が少しでもあれば有とし、供試した全ての菌床に占める発生の割合を観察する。



無 absent

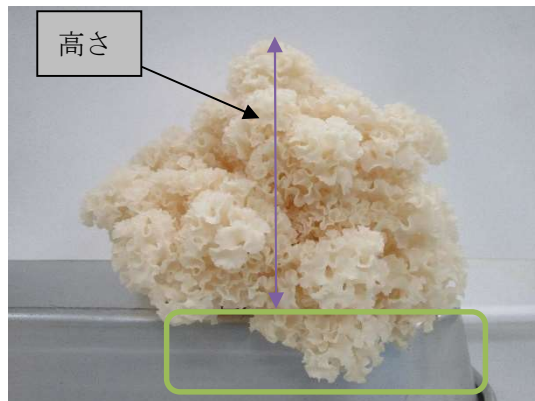
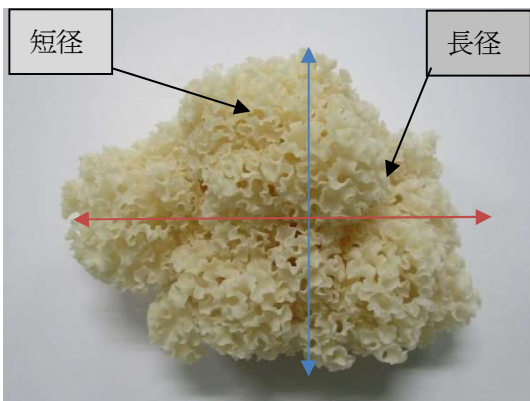


有 present

形質6 子実体株の直径 Char.6 Fruit body: diameter

形質7 子実体株の高さ Char.7 Fruit body: height

接種面から2cm上で収穫し、断面から上方向へ生長している最大到達点までを子実体株の高さとする。写真のように断面より下方向へ垂れ下がる部分()については、高さには含まないものとする。



形質8 花弁状菌さんの色 Char.8 Petal-like cap: color

収穫時の標準的な花弁状菌さんの表面の色を観察し、標準品種と比較し評価する。(参考: RHSカラーチャート№と状態区分)

(参考)

- 1: 白色 =155A、155B、155C、155D、NN155A、NN155B、NN155C、NN155D
- 2: 淡黄白色 =158B、158C、158D、159C、159D、11D
- 3: 黄白色 =158A、159A、159B、18C、18D、19D
- 4: 淡黄色 =10C、10D、11C、12C、12D、13D、14D、16D、18B

形質9 花弁状菌さんの形 Char.9 Petal-like cap: shape



1 針状 spine



2 カーネーション状 carnation



3 ハボタン状 kale

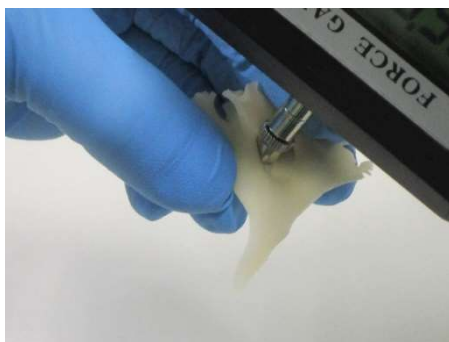


4 イチョウ葉状 ginkgo

形質11 花卉状菌さんの硬さ Char.11 Petal-like cap: firmness

形質16 枝の硬さ Char.16 Branch: firmness

写真のようにデジタルフォースゲージ（ノミ型治具）で測定する。花卉状菌さんが割れた時点での最大値を測定値とする。



参考：写真の機器はデジタルフォースゲージはAD-4932A-50N
(株式会社エー・アンド・デイ)

形質12 花卉状菌さん先端の切れ込み割合 Char.12 Petal-like cap: notch of periphery

収穫した子実体株において、花卉状菌さん先端の切れ込みがある子実体株の割合を観察する。少しでも切れ込みがあればその菌床は有とし、調査個体に占める切れ込み有の菌床の割合を求める。



切れ込み無
absent



切れ込み有
present

形質13 花弁状菌さんの密度 Char.13 Petal-like cap: density

子実体株全体を見た時の花弁状菌さんの密度を評価する。



3 粗 sparse

5 中 medium

7 密 dense

形質14 枝の色 Char.14 Branch: color

収穫時の標準的な枝の表面の色を観察し、標準品種と比較し評価する。

(参考：RHSカラーチャート№と状態区分)

(参考)

1：白色 =155A、155B、155C、155D、NN155A、NN155B、NN155C、NN155D

2：淡黄白色 =158B、158C、158D、159C、159D、11D

3：黄白色 =158A、159A、159B、18C、18D、19D

4：淡黄色 =10C、10D、11C、12C、12D、13D、14D、16D、18B

形質17 菌柄の色 Char.17 Stipe: color

収穫時の標準的な菌柄の色を観察し、標準品種と比較し評価する。

(参考：RHSカラーチャート№と状態区分)

(参考)

1：白色 =155A、155B、155C、155D、NN155A、NN155B、NN155C、NN155D

2：淡黄白色 =158B、158C、158D、159C、159D、11D

3：黄白色 =158A、159A、159B、18C、18D、19D

4：淡黄色 =10C、10D、11C、12C、12D、13D、14D、16D、18B

形質19 菌柄の硬さ Char.19 Stipe: firmness

※現在、再度検証中です。現時点での測定方法が以下のとおりです。

菌柄最下部（収穫した際の子実体株裏面の断面部分）の硬さを、写真のように果実硬度計（円錐型治具）で測定する。円錐型治具が5mm程度沈むまで、または、突き当てツバ全体に測定箇所の子実体株が接するまでの値を測定値とする。



参考：写真の機器は果実硬度計KM-1型（株式会社藤原製作所）

形質20 菌柄の模様割合 Char.20 Stipe: rate of pattern

菌柄最下部（収穫した際の子実体株の切断面）における模様の有無を観察する。一部でも模様があればその菌床は有とし、調査個体に占める模様有の菌床の割合を求める。



無
absent



有
present

形質21 最適培養期間 Char.21 Fruit body: incubation period

種菌接種から発生処理（発生移行）までの期間を測定する。

形質22 発生処理から収穫最盛期までの期間

Char.22 Fruit body: period from scratching to harvest

発生処理から収穫最盛期までの期間を測定する。

(発生処理および最適培養期間の定義)

- ・原基から花弁状菌さんが形成し始めた状態であること。
- ・フィルターに子実体株が食い込まないこと。
- ・品種特性を維持し、形質調査可能な子実体株を安定して得られ、最も子実体株の重量が得られる最短期間を最適培養期間とし、発生処理を行う。

(発生処理後の注意事項)

- ・子実体株の生長により栽培袋との接触の恐れがある場合は、適宜、発生処理時の袋開口部を調整する。

(収穫最盛期の定義)

- ・色、形、硬さなどの品種特性を維持して、最も子実体株の重量が得られる最短期間を、発生処理から収穫最盛期までの期間とする。

形質23 子実体株の平均重量 Char.23 Fruit body: weight at harvest maturity

菌床あたりの子実体株の重量を測定し、供試した全ての菌床の平均重量を算出する。

「参考」

(培地調製)

培地基材にはカラマツおが粉を使用する。栄養源には、小麦粉とフスマとビール酵母を5:1:1(重量比)で混用する。栄養源は、培地総重量の7%(1kg菌床当りの小麦粉・フスマ・ビール酵母の合計が70g)になるように添加する。含水率(湿量基準)は65±3%とする。

(充填) 栽培に用いる容器(袋)には、特に指示がない限り、下記と同様の性能を有するものを使用する。

ポリエチレン製栽培袋(約100mm×90mm×390mm)

フィルター特性: 厚み 45μ(±5%) 材質 PE,PP,PET、孔径40φ、孔数1

フィルターJIS透気度(ガーレー試験機法JISP8117:2009): 通気量 3.0~10.0cc/cm²・sec

培地を栽培袋に1,000±50g充填し、約100mm×90mm×150mmに押圧した後、培地中央部に径20mm程度の穴を1か所開ける。

(殺菌)

殺菌は、118℃で60分の高圧殺菌を原則とするが、98℃で4時間以上の常圧殺菌も可とする。いずれも場合も釜内温度を測定し記録しておく。

(培養管理)

温度22±2℃、湿度70~80%、光照射50~200Lxで2~4時間程度/日とする。

(発生処理)

栽培袋上部をカッター等で切り、開口部は子実体株最上部から2~3cmを目安とする。

(発生管理)

温度22±2℃、湿度90~98%、光照射100~500Lxで6~8時間程度/日とする。

(注意事項)

子実体株の生長により栽培袋との接触の恐れがある場合は、適宜、発生処理時の袋開口部を調整する。